

(様式1-2)新規評価シート

農政部 農地整備課

事業名	県営畑地帯総合土地改良		路河川名等	—				
事業毎の通番	1	市町村名	山形村	箇所名(ふりがな)	唐沢(からさわ)			
事業目的	当地区は、唐沢川の右岸にあたる扇状地上に立地し、南東へ傾斜した畑地帯である。野菜、果樹、花きの栽培が複合的に行われる県下でも有数の産地として発展してきた。県営かんがい排水事業や団体営畑地かんがい事業により、畑かん施設が整備され昭和44年より供用が開始されている。設置から半世紀が経過した畑地かんがい施設は老朽化が著しく、石綿管を用いた管路の破管、加圧ポンプの故障等が頻発しており、断水による営農の支障や多額の修理費用の負担が生じている。今回、更新整備を行い安定的な給水環境と揚水ポンプ設備等にICT機器を導入し、維持管理の軽減や作業の安全化を図る。							
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進(多様な技術の活用による効率的な経営の推進)		事業実施の根拠法令等	土地改良法				
関連する事業、計画等	第3期長野県食と農業農村振興計画 第5次山形村総合計画(後期基本計画)、まち・ひと・しごと創成総合戦略(第2期計画)							
保全対象・範囲 受益対象・範囲	山形村内の長野県中信平右岸土地改良区が施設管理する区域(一部) 受益対象の農家数 130戸、農地面積 A=34.7ha							
着手年度	2023年度(令和5)	事業期間	6年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
完成年度(見込み)	2028年度(令和10)	費用対効果	1.1	国庫	その他	県債	一般財源	
全体事業内容(主な工種)	畑かん施設(更新) A=34.7ha(L=13.7km) 揚水ポンプ設備(新設) N=1箇所			940,000	470,000	211,500	258,500	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	作物の生産性向上[用水路改修により、用水不足による作物被害を防止し、生産性の向上を図る] 維持管理費の軽減[用水路改修による施設維持管理経費の節減] 作物の品質向上[用水路改修、畑地かんがい施設の整備による品質や価値の向上]						
	間接的効果(定量的・定性的)	耕作放棄地の発生抑制[用水の安定供給による耕作放棄地の防止]						
評価の視点	必要性	○受益戸数 : 130戸 ○受益農地面積 : 34.7ha ○農地利用集積率(目標値) : 目標値 30% ○高収益作物生産額 : 全体計画生産額のうち80%以上					評価	A
	重要性	○畑かん設備の破管数 : 近年5年で11箇所 ○関連計画、重要施策との整合 : 関連計画、重要施策と3つ以上整合 ○人・農地プラン : 実質化された人・農地プラン作成済み(全村1地区 R1.9実質化) ○新技術の導入 : 給水・配水作業について遠方監視・操作などにより省力化を図る					評価	A
	効率性	○費用便益比(B/C) : 1.10 ○事業期間 : 6年間 ○工法等の比較検討 : 平成29年度に畑かん更新計画概要を検討・作成済み					評価	B
	緊急性	○近年の自然災害 : 近年5年になし ○道路の状況 : 耕作道等が未整備であり、ほ場内にある畑かん施設の維持管理に支障が生じている ○用水の状況 : 施設の老朽化により支障が生じている ○農業就業人口に占める高齢者の割合 : 高齢者(65歳以上)の割合が50%未満					評価	B
	計画熟度	○事業情報の共有 : 平成28年に準備委員会を設立し、29年度に更新計画概要について確認済み ○関係機関との協議 : 地区内にある埋蔵文化財調査の可否を含め、事前協議に着手している ○地域の合意形成 : 平成29年度に作成した更新計画概要により、受益者及び関係土地改良区の合意を得ている。 ○住民との協働 : 維持管理等に住民参加は見込まれない ○事後・再評価からのフィードバック : 事後 課題整理表 整理表番号8-1					評価	A
	所管課の意見	本地区の畑地かんがい施設は老朽化が著しく、管路の破管や加圧ポンプの故障による断水が頻発するなど、営農に支障をきたしているため、事業着手が妥当であると判断する。				採択状況	総合評価	
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。				○	A		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手			

事業概要説明図表	【位置図、平面図、構造図等】		
	<p>既設送水管(石綿管) 破管漏水状況</p>		
	<p>既設給水栓 補修工事状況</p>		
	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	昭和40年に着手した中信平総合開発事業により敷設された右岸上段幹線水路から分水し、昭和40年代に実施した県営かんがい排水事業や団体営畑地かんがい事業により当該地域へ配水している。設置から半世紀が経過した畑地かんがい施設は老朽化が著しく、破損事故が頻発しており修理対応の度に断水を余儀なくされ営農に支障が生じている。	
② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	平成27年度に受益者を対象に意向調査を行い早急な更新整備が必要として、平成28年度に施設管理者である長野県中信平右岸土地改良区が畑かん施設更新準備委員会を設立し検討に着手。平成29年度にはコンサルタントに畑かん更新計画作成を委託し、複数案による計画の検討・受益者への周知等を進めてきた。		
③ 事業説明等の経緯	H27年10月: 受益者を対象に更新整備に関する意向調査を実施。 H28年4月: 唐沢地区畑かん施設更新準備委員会設立(8月、9月、12月、29年3月に開催) H29年3月: 唐沢地区 畑かん更新計画概要作成業務を、長野県土地改良事業団体連合会へ発注。12月完了。 H30年4月～6月: 第2回意向調査を実施。 H30年10月～11月: 戸別訪問説明を実施。		
④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	第3期長野県食と農業農村振興計画、第5次山形村総合計画(後期基本計画)及び、まち・ひと・しごと創成総合戦略(第2期計画)に基づき優良農地の整備保全、担い手農家の確保のため土地盤整備を推進する。		
⑤ 自然環境・生活環境への影響と配慮	破管による農地の被災防止。 工事期間中、重筋振動・騒音・排出ガス対策のため早朝及び夜間の作業を自粛し、排出ガス対策型の作業機械を使用する。		
⑥ 地域活性化への影響と配慮	用水の安定供給と遠隔監視・操作による維持管理の省力化や安全化を図る。		
⑦ その他	○再評価 課題整理表 整理表番号8-1		
事後・再評価からのフィードバック	実施計画策定及び詳細設計においては、事業費の妥当性、効率的な施設の維持管理及び安全性の確保等の検討を行う。	事業代表地点の緯度経度	北緯: N 36° 10' 46.4" 東経: E 137° 51' 44.1"